

刊夕日九廿月七

常磐毎日新聞

定価 一部金銀一ヶ月五拾五銭 郵費五拾銭
廣告料五拾二下迄 一行金五拾銭
日曜 祭日 翌日 休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式会社

獨乙へ向ふ (四)

彫刻家本多朝忠氏各妹
警女出身 本多サノ

(二月十五日)

甲板でスキヤキ會がある
紅白の幕、ギョ灯提、チャ
ブ臺に座布團、日本人は浴
衣がけ、外人も變な上つば
りを着て出て来た、座れな
いので投出や横座り、紀念
の寫真をとる。

(二月十六日)

ゴルフの競技がある、船
の人連には、かなわない、
どんな下手な人でも船員と
組み勝つ、一回目に勝ち二
回目に敗れました。

(二月十七日)

紀元節とスキ焼會の寫真
が出来てきた、各一枚づつ、
買ふ、スキ焼の方はよく撮
れたが、紀元節の方は太陽に
デカ／＼照されたので少々
不観顔、伯林に着いてから
送りませう、夕食後映畫あ
るも見ず讀書をする。

(二月十八日)

船の圖書部から借りた本
を又借りて讀む、本を讀ん
でおると時間の立つのも忘
れて食事の鐘にビックリす
る、起きると部やヘコヒ
ーを持つてくる、八時の朝
食、此頃は味噌汁つきの日
本食を取る、午後三時には

お茶だが、いつもおなかじ
すかないので食堂へ出ない
が今日はボーイが迎へに來
た、本を見ておつたのでゆ
く事をやめると殊別御馳走
が出来たと持ってくる、
おしるこ、羊羹、ミツ豆等
々遂目の前に持つてこられ
ると食べて終う。

★0000000000★
○明日の献立○
◎0000000000◎

【朝】味噌汁・南瓜
小付 やきものり

【晝】金平ごぼう

【晚】ナンテビ・フオンボ
ーチドエックス
まみ菜浸し

(二月十九日)

シンガポールに着く前
たいに波が少しもたつた、
明日はアデンに著くとか
港に着く前に手紙を書いて
おかないと、見物に時間が
とれると出しそびれる、船
の人々はよく働く、毎日デ
ッキを洗ふ音で目がさめる
船のすみからすみまで、雜
布を掛けてみがいでおる、
一軒の家でも、こんな掃除
除をしたら随分綺麗になる
ことだろう、船の人なんて
暇の様に思つてゐるが毎日
見てゐると實に感心する。

(二月廿日)

朝七時アデンに入港、岩
石の町、一本一草もない二

十里もゆくとオワシスとて
柱物の繁つてゐる所があり
ます、こゝで目を引くのは
鹽田です。

(二月廿一日)

今日から紅海に入りまし
たが船の上からみると印度
洋と少しも變りません、地
平線の彼方は空です。

(二月廿二日)

午後六時三十分より一、
二等船客一緒にスキヤキ會
をやる、ボートイ君全部女裝
假裝の人々の群、東京オン
ドの踊、騒ぐ様は海の上と
は思はれません。

(二月廿三日)

午前十一時鹿島丸に行合
ふ、兩船盛に旗やテープを
振つて觀迎し合ふ。

(二月廿四日)

急に寒くなり冬服となる
(二月廿五日)

午後五時半ポートに入港
カイロ見物者はこゝより上
陸し船がスイズ運河を通過
してポートサイドに着く迄
に見物して歸船するわけで
す。

埃及の首府カイロに向ふ
眞暗の中を一路カイロに自
動車を走らせました、あた
りは見えませんが星がこぼ
れる程美しく光つておりま
す、カイロのホテルに着い
たのが夜の十一時、疲れて
ぐつすりねむりました。

看護婦急派
求めに應じ
ます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七

木村醫院
平町六丁目橋際
電話三〇九番

上田病院
平町南町
電話一二九番

藤沼醫院
平町・紺屋町
電話五〇七番

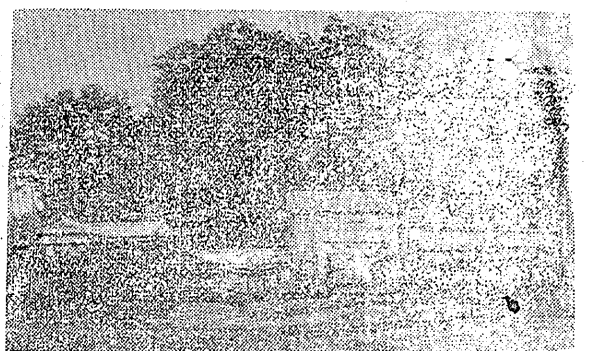
市原醫院
平町・田町
電話一一四番

●お新益提灯に御注意!!!

近年各地に於て再製提灯が市場出る爲
めお贈りの方も頂いた方も誠に迷惑さ
れ又失禮にもなりますので製造者の間
で相談の上今年の品物へは必ず
昭和十年製の 赤色マークを入れて
あります。御買求めの際は
必ず御忘れなく昭和十年製マーク入と
御指命下さい。

昭和十年七月

提灯同業組合



絶好の御買時

7日間
7月30日 8月5日

贈るに御便利
三井の商品券
受けて重寶な

夏衣全店一掃大賣出し

思ひ切つた値段段清新なる商品全店に充滿致して居ります
御中元の贈物御仕着せ用品にこの期を撰んで多大の御用
命を偏に御願致します。

京染ジヨゼット 一・八〇
新着尺モスリン 二・五〇
紺上等ポイル 一・二〇

均一臺一圓。
一圓五十銭。二圓。
三井吳服店
電話三八八番

御位牌と
佛壇佛具
品よく
安
い

平新川町

橋本屋

電話一六三

◇宿泊料 1.50 2.00 2.50
(御帯在は左記料金にて中食料をふくませます)
◇日歸浴席料 .20
◇白炊料 .50— .80 入湯料・室料
夜具料一切
◇料理一定食 .80 1.00 1.50
その他一品料理洋食
◇湯 効 神經痛・リウマチス・胃痛
病・痔疾・婦人病・逆上・中風・脚一病
(内務省東京衛生試験所協定)
◇諸設備 撞球臺・高級ラヂオ・大廣
間・讀書室・近代式浴場と洗面所・水
洗式便所・小動物園・タクシー部・御
子様運動器具
◇名物 川魚料理(うなぎ・鯉)
蜂蜜羊かん
常磐線湯本驛 小瀧鑛泉
旅館 龍の湯
御自炊 電話 小名濱 103番

新版 父歸る

元大浦村で堂々たる肥料商

三三三 落ぶれた父・息子は醫者

平町附近の人物をヒーロンに折込んだ菊地寛氏の戯曲「父歸る」を地で行く露骨な人情の弱点劇が満都の話題となりつゝある

實父定之助は上京後足立區本木町一の九二一秋元金藏氏方へ厄介になつてバタ屋で日を送つてゐたが飢に堪へかね去る廿四日芥箱の上の辨當へ手をつけて目白署の取調べをうけ實子との事情も判明同署より忠雄君へ引取方を交渉したが忠雄君は「親とはいひ養育もせず一家を苦しめた身で今更何を云うのです、感情を偽はつてまで迎へる氣になりませぬ」と強硬に突ッぱねる爲同署でも手を引き頼みの綱を絶たれた定之助は淋しく何處へか去つて行つたといふことである

地下採掘延期の 陳情委員が出仙

けふ鑛山監督局に出頭

平町の地下採掘に關し這般の町會に於て鑛山監督局より提示された解決案三ヶ條の内「磐城炭鑛に現在許可しある試掘願を今後二ヶ年間保留すること」の條項を以つて一時間問題の解消を圖らんとする陳情委員は既にその回答期間が翌卅日に迫つて居るので本日午前六時半驛發下り列車にて青沼町長を始め井上、萩原、佐々木川崎、多田井、猪狩、吉田

(五)の七委員が出仙した、委員の一行は仙臺鑛山監督局に出頭局長に此旨を陳情する筈

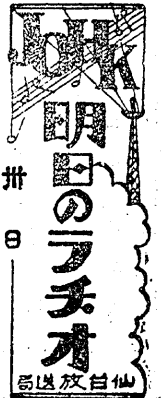
旭坊轉落 溜池で溺死

赤井村大字赤井字沼ノ作三 四煉瓦工場職工布川喜内三男旭(三)は昨廿八日午前七時頃自宅附近で兄の貞雄(二)と遊戯中誤つて附近の溜池に轉落溺死した

雇つた運轉手 實は自動車泥

芹澤自動車店の御難

平町三丁目芹澤自動車店で 去る廿五日雇入れた運轉手 三生れ佐藤貞造(三)は雇は



明日のラジオ 今晩も明日も南東の風天氣良く所により立夕

明日のラジオ 前六、三〇 速成フランス語講座 丸山順太郎 前七、〇一 朝の修養「家訓講話」白石正邦 前七、四一 教育特別講座 明治天皇の御遺徳文學博士春山作樹 前八、〇三 家庭講座 「洗濯と漂白」菱山衡平 後八、〇五 新日本音楽 「曉の調べ」外本玄智 後八、〇〇 婦人の時間 「西洋風のお茶の作法」手塚かね子 後六、〇〇 子供の時間

漫畫劇袋千平漫畫劇場 後六、二五 ラヂオ体操體験談 後七、三〇 講演「國體の本質を教ふる國生みの物語」山田孝雄 後八、〇〇 獨唱と女聲合唱 明治天皇御製より増永丈夫大阪放送合唱團 後八、二〇 マンドリン合奏、オルケストラシンフォニカタケイ 後八、四〇 ラヂオドラマ 「兒故の春」水谷八重子 梅島昇外大勢

鯉群見當らず

今夜磐城丸小名濱へ 出漁船は經費倒れ

千葉縣野島沖合の鯉漁場に 出動中の本縣指導船磐城丸は豫定を繰上げ本廿九日午後六時頃歸港するとの無電を試験場に寄せて來たが本年の鯉漁場は黒潮異變から鯉群は一向發見されず近年にない不漁で出漁中の漁船はいづれも經費倒れに弱つて居ると

市民のラヂオ体操

來月一日から第一第三で 精勤者には記念品

平町主催市民のラヂオ体操會は八月一日より廿日間第一、第三兩校庭に毎朝五時五十分迄に集合六時から三十分互つて行はれるが本年からは期間中皆勤者に對し町役場から記念品を贈る事になつた

蠅取り競争 入賞者決定

既報長橋町いはき新報主催蠅取り競争は廿七日より三日間催され本廿九日審査の結果

妻子を残し 家出男の捜査

東京市杉並區高圓寺一丁目一左官職奥山常吉(三)は去る廿五日妻キミ外五人の子供を残して家出したので心當りを捜査した處實弟に當る湯本町字辰ノ口奥山唯方に立寄り同人の紹介で磐城炭鑛に働いて居るらしいと本日平署に捜査方を願ひ出した

壯丁検査開始 郡下

壯丁検査は愈々廿九日小名町壯丁の學術検査を皮切りに來月十五日迄第一小學校講堂で行はれる

酒の代りに...

金時計を強奪

暴漢難なく捕はる

本廿九日午前三時頃平署へ一人の年増女が髪を振り亂し「暴漢に金時計を強奪されました」と訴へ出たので署員は直にオートバイで女の家、三丁目五一料理店うつぼ亭小菅シモ(三)方に乗込みと既に犯人は逃走したので附近捜査の結果間もなく

く南町地内を徘徊する犯人を逮捕したが犯人は若松市榮町生れ好間村大字北好間字町田賣炭商武藤貞三(三)で酒飲みたさの餘り午前一時頃同家に暴れ込み前記女將シモが遅いからと断るや酒がないならとシモさんの右腕に掛けて居た七型金時



明治太平記

(上巻及上巻)

(作) 寺島征史
(監) 野口

第百八十七回

空葛籠(四)

二人の男がせおつてきた葛籠が床のうへにおろされ

ると

『よし、帰るがよい』

ウエルズは命じた。

『はッ』

商人風の男は頭をさげた踵をかへした。

『明朝はやくきてくれ』

『へい』

『忘れてはならぬぞ』

『かしこまりました』

ふたりの日本人はドアの外へ消えた。おとわは望みの綱をたれたやうなおもひをした。

『あのひとたち何ですの』

『きいてみるとウエルズはわらふのみだつた。』

『その葛籠は?』

『さア何に使ふのかな』

『何がいつてますの』

『空さ』

『すこぶる冷たい言葉だ。いつものウエルズとはおもはれぬ。』

『空の葛籠を持つてきてどうなさる?』

『はてどうするか...おとわしやん、いよいよ明日午後、蒸気船が横濱港を出帆しますよ、ふたりのた

のしい密月旅行』

『支那へいつたら、天下は

れての愛人同士だね、そして結婚...』

『結婚ですつて?』

おとわはおもはずき返

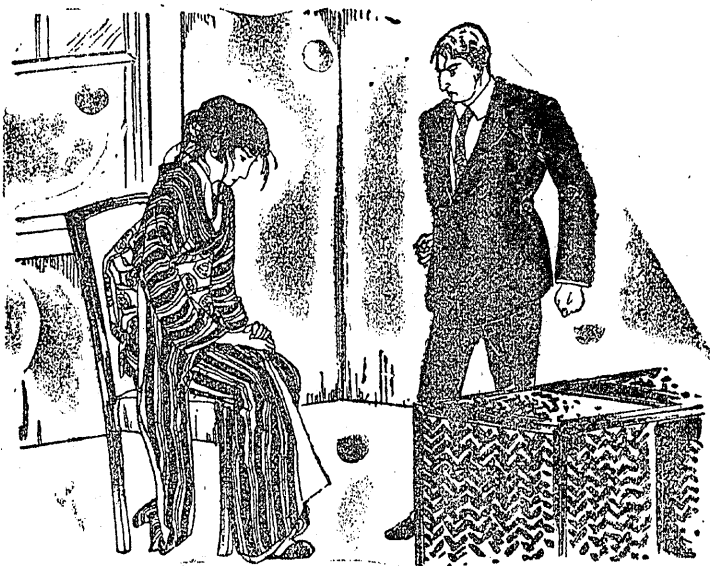
した。

『左様わたくしおとわしやんと結婚します。支那に二年ほど居て、本國へ歸ります。そのとき、あんたはわたくしの正妻、令夫人として本國では迎へてくれませう』

『...』

『いよいよ明日です、明日

蒸気船へ乗込んでしまつたらもう大丈夫です、それまでの辛抱さ』
ウエルズの碧眼は意味ありげに葛籠にそゝがれた。葛籠は何のために運び込まれたのか...
朝になるとウエルズは氣ぜはしくいつた。
『さア、おとわしやん仕度をするのだ』
おとわはぼんやり椅子に腰かけながら黙つて海をながめてゐた。
『さア、早く...』
『したくつて、どんな?』



『左様わたくしおとわしやんと結婚します。支那に二年ほど居て、本國へ歸ります。そのとき、あんたはわたくしの正妻、令夫人として本國では迎へてくれませう』

『...』

『いよいよ明日です、明日

のしい密月旅行』

『支那へいつたら、天下は

れての愛人同士だね、そして結婚...』

『結婚ですつて?』

おとわはおもはずき返

した。

『左様わたくしおとわしやんと結婚します。支那に二年ほど居て、本國へ歸ります。そのとき、あんたはわたくしの正妻、令夫人として本國では迎へてくれませう』

『...』

『いよいよ明日です、明日

のしい密月旅行』

『支那へいつたら、天下は

れての愛人同士だね、そして結婚...』

『結婚ですつて?』

船に乗込むまでの辛抱、ねがひます』
『エッ! この中へ?』
おとわは身を顛はした。
『こわいことありません。パークスの眼をさけるためにしばらく荷物になつてくだしやい』
『そんな...』
『たのみます、おとわしやん』
『いやです』
『うむ、いやですか、それなら無理に入れますぞ』
ウエルズはつゞらに手を掛けて、大きな蓋を取のけた。中にはやはらかな毛布がしいてあり、たべ物や飲料水なども入れてある。

店主	が	店員
を	連	れ
正	シ	イ
正	シ	イ
正	シ	イ
平・田町	ラ	ス
ラ	ス	ト
電	二	五
番	三	番

開店拾週年感謝大賣出し

10間

感謝 洋品部開店十週年を迎へまして、吾れら店主店員一同、御引立に對して今年も強く感謝の念にうたれる次第です。今度の賣出しは全く多年の御厚情に對する感謝の賣出しに御座います。特價品は原價以下普通品でも正札の一割、二割、三割安に致しまして、商品の大半をそらばん抜きで御願する事に致しました。御買逃しのなき様にと、誠に御來店の程お待ち申します。御買逃しのなき様にと、誠に御來店の程お待ち申します。御買逃しのなき様にと、誠に御來店の程お待ち申します。

海の用品 特價
バラソール均一 特價
子供家庭服 特價
ワイシャツ 特價
ネクタイ均一 特價
バナマ帽子 特價
贈答品 特價

券品商 製調りよ圓一

7月21日 8月1日
7月30日 8月10日

特	座布圍カパー(大判)・一七	レ	ス	カ	一	五
價	本毛子 供腹卷・二〇	パ	ラ	ソ	一	〇
品	ガーゼ肌着 二重・二〇	ポ	ブ	リ	一	〇
	ボブリンカワツボー着・四	小	二	五		
	トブラルコ家庭服・四五	麻	二	〇		
	ポイルスカーフ・三五	長	四	五		
		袖	二	〇		
		靴	下	箱	入	一
		靴	下	箱	入	一
		靴	下	箱	入	一
		靴	下	箱	入	一
		靴	下	箱	入	一
		靴	下	箱	入	一
		靴	下	箱	入	一

店員 十五才以上 四名

大黒屋洋品店

平野三丁目 電話 116

毎度御引立を戴いてゐる
藤寅では例年通り
冷タイ美味しい飲物

アイスクリーム アツキアイス
ミルクセイキソーダ水
ミツ豆クリームソーダ
其他氷水各種

相初めました是非夏の夕の御散歩
歸へりに御立寄り下さい

平一丁目
迅速 出前
迅速

藤寅

電話一四一番